



新年を迎え、防災ひろばにも静かに時間が流れていきます。こども達はひろばに来て、ボールを蹴ったり、自転車を乗り回したり。元旦の夕刻には、ひろば一面を覆った雪を集めて、雪ダルマを作るこども達の姿は輝いていました。残念ながらタコあげやコマ回しなどのお正月らしい遊びは見られなかったようです。今年は風が弱かったからでしょうか。それとも最近ではそのような遊び自体がはやらないのでしょうか。いつか、ひろばの空にたくさんのタコがあがる日を想像しつつ、最近のひろばの風景を集めてみました。

愛犬家のグループは

昨年、一時的にひろばに入る犬の数が減りました。芝生やクローバーの植付け工事などでひろばが閉鎖される期間が長かったからです。アスファルトの熱をのがれて、草の冷を一番求めている時のことでもありました。

昨年春に、防災ひろばの会がひろばの計画案を発表しました。その時に数人の愛犬家の方々がおいでになりました。ひろばが整備されるのはよいが、今までのように犬と一緒に利用できるようにしてほしいというご意見でした。ひろばの会が提案する計画では、犬を排除することにはなっていません。しかし、今後もそれが維持されるかどうかは、愛犬家の皆さんのマナー次第だということが、話し合いの結果判ってきました。そこで、その場にいた方々が呼びかけを行い、十数名の方が集まって愛犬家のグループを作り、自主的にマナーを守ってひろばを利用しようという機運が盛り上がってきました。ゆく



ゆくは、犬のしつけ教室などを開こうなどと夢も広がっていったのでした。

ひろばと犬を通した「人と人とのつながり」が生まれつつありましたが、その後少し様変わりしているようです。

守られなくなったルール

今、ひろばにはたくさんの方が犬を連れて遊びに来られています。

もちろん、ひろばを利用する愛犬家の方のすべてがそうではないのですが、最近、ひろばのルールを守らない方が多くなってきたように思われます。犬の手綱を離している方が見受けられます。夜、鍵のしまった扉を乗り越えて犬を放している方もいらっしゃいます。何人かにお声をかけたら、ひろばにルールがあることを知らないようなのです。

いつのまにか、このひろばでは犬を放してもよいと思われるようになったのかもしれない。手綱を離された犬は大喜びで走り回ります。愛犬家の方にとっても犬が喜ぶ姿を見ることはうれしいのでしょう。しかし、小さなこどもやお年寄りにとっては、怖く感じることもあります。現に「犬がいる時は怖くて入れない」という声も聞きます。そこでひろばでは放し飼いを禁止するルールが作られ、大きく掲示もしてあります。しかし、一部の方には見えていないようです。

行政は住民から苦情を訴えられれば、「犬を連れての散歩禁止！」の看板を掲げることになるでしょう。一部の人たちのマナー違反で、犬の飼主全体が悪く思われてしまうのはなんとも残念です。

いろいろな使い方ができるひろばへ

このひろばは、一昨年の8月から暫定利用が始まり、住民に開放されました。区と住民が協働で鍵の開け閉めを行いながら、禁止項目をなるべく少なくして、従来の公園とは違った使い方ができるようにしようという意思が働いています。それは公園としての本格利用が行われる時にも引き継いでいきたい精神です。

そのおかげで、「犬と一緒に散歩できる公園」や「自転車を乗り入れてもよい公園」という使い方が定着しています。そしてこれからも、もっともといろいろな使い方ができるひろばにしていけないでしょうか。区が開設を計画しているプレーパークも、その精神からは大いに歓迎したい施設です。プレーパークの精神の1つに、「自分の責任で遊ぶ」ということがあります。それは、多少危険なことをやってもいいけど、それは自分の責任でやりましょうということです。たとえばケガをしても、それを区や他の誰かのせいしないで、責任を持って遊ぶということです。

ひろばの使い方についても同じことが言えます。犬と散歩できることも、「手綱を離さない」、「糞や毛玉は持ち帰る」など、最低限のルールを守ることが前提となります。犬と人間が共生できるひろばにできるかどうかは、今のひろばの使われ方にかかっているとも言えます。



12月15日(日)にたくさんの方が参加して、はっぱとどんぐりイベントが行われました。

「はっぱのイベント」は、1年前に作った腐葉土を取り出すことから始めました。掘り返してみるととてもよい腐葉土ができています。中からはいろいろな虫が現われ、子供たちは大騒ぎ。腐葉土は、学校や近所の方にお分けしました。そして、新しい落ち葉で「落ち葉のプール」を作って遊びました。その後で落ち葉を腐葉土箱に入れて、また1年待ちます。こんどはどんな虫が出てくるのでしょうか。

ひろばで焚き火をして焼き芋やトン汁をつくり、午後からは「どんぐりのイベント」です。あらかじめ集めておいたどんぐりを200個、苗木用のケースに植え付けました。春の芽吹きが楽しみです。

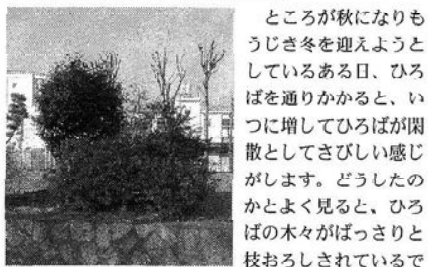


投稿 ひろばの枝おろし

いつもひろばを見守っている方がいらっしゃることを、この投稿から知ることができました。まちづくりの会などに出て意見を言うことはなくても、ひろばに関心も期待も持っています。そのような方のご意見を大切にしたいと思います。

私は毎日仕事で、本町公園や防災ひろばの周りをバイクで通ります。本町公園の樹木はりっぱに育って、季節ごとに様々な風景を楽しむことができます。一方、防災ひろばはというと、最近こそ芝生が敷き詰められましたが、まだまだ閑散としたはらっぱです。だからこそ、これからどんな公園になるかを楽しみにしています。

最近になって知ったのですが、防災ひろばの中に残されている木々は、まちづくりの会の皆さんの努力によって、切られる寸前に守られたとのこと。そういう話を伺ってから見ると、1本1本の木々が生きのびたことをうれしがり、感謝しながら一生懸命枝を伸ばし、葉をひろげているように見えます。



はありますか。隣の池二小のケヤキもほとんど枝がなくなるくらいに刈り取られています。そのためひろばが妙に見通しが良くなり、いつにも増してさびしく感じたのです。ただの剪定というには度を越した、あまりにむごい手術のように見えました。

私は木については素人なので、詳しいことは判りませんが、あんなにもぼさりと枝を切らないといけないものなのでしょうか。本町公園の木を見ると、あんな枝おろしはしていないように見えます。そのため、どの木も伸びやかに育っています。

あるいは近所の方から落ち葉への苦情などがあるのでしょうか。それなら本町公園のほうをはるかに落ち葉も多いでしょう。確かに近所の方々が落ち葉の掃除に苦労されていることは、通りかかる度に見知っているつもりです。しかし、落ち葉は一時のこと。それに余りある恩恵を、私たちは木々からいただいていると思うのです。

わたしは木が大好きです。季節ごとに楽しませてくれますし、木陰や小鸟、昆虫などでも楽しませてくれます。まして、ひろばの木はまちづくりの会の皆さんの努力によって残された木です。どうか、それらの木々が痛々しい姿にならないように、暖かく育ててほしいと望みます。

(Kさんからの投稿)